

〈参考文献〉

『御巡見要録 乾』 函館市中央図書館蔵

『一本木と猿田彦塚』 田畑幸三郎

『海峡』第七号三〇—三三頁 昭和三十一年五月一日刊行 海峽評論社

『函館市史資料集 第二七集』 函館市史編纂委員会 昭和三十八年四月刊行

『信濃路の双体道祖神』二八四—二八六頁 小出久和 平成一五年一月一五日刊行 敬和

(東京都北区)

第二二八回例会に参加して

市東 真一

長野県民俗の会第二二八回例会は、令和三年(二〇二一)年二月一八日に伊那市内で開催された。本例会では、午前中にザザ虫捕り、昼食を挟んで午後道祖神の見学と篤竹細工の製作の見学をした。本稿では、例会の様子とともに参加した感想について報告する。

今回の集合場所は、伊那市荒井の合同庁舎駐車場であった。ここでは、本日のスケジュールについて説明があった。その後、各自の車で会場まで移動する。はじめに、天竜川河川敷にてザザ虫捕りの見学が行われた。地元の中村昭彦さんから、ザザ虫と呼ばれる水生昆虫の種類について説明があった(写真一)。ザザ虫は、ヘビトンボ、カワゲラ、トビケラの幼虫のことをさすという。また、ザザ虫を採集することをムシフミ(虫踏)と称し、これを行うためには天竜川漁業協同組合の許可

証が必要であるという。その後、ザザ虫の実演が行われた。ザザ虫取りでは、箕のような形のヨツデアミ(四つ手網)を川の流れとは逆に向け、その前方から鎌を使って川底の砂利を掘り返すということが行われていた。網を引き上げてみると、中には小さな緑色をしたザザ虫が蠢いていた(写真二)。その後、実際にザザ虫捕りを体験してみた(写真三)。実際に川に入るとあまり流れはなく、水もそれほど冷たくはなかった。しかし、実際に鎌を使って川底を掘り返すのは大変であり、慣れないため途中で長靴に水が入ってしまった、川から上がった後はとても冷たかった。また、中村さんのご好意で、ザザ虫の佃煮を試食させていただいた。

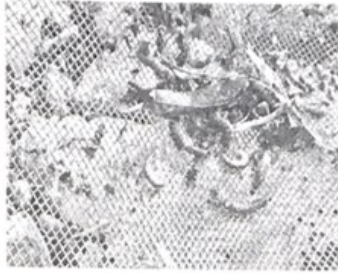
ザザ虫取りの後には、市内の自然石道祖神の見学が行われた。今回見学したのは、伊那小澤区中小沢辻、伊那下新田区道祖神場、伊那上新田区南街道四辻、美篤青島区下村横山道辻、美篤青島諏訪社南側、美篤上原区公民分館、美篤中泉御社宮司跡の七か所の自然石道祖神であった。これらの道祖神はほとんどが道の端に置かれており、自然石をそのまま利用したものも多くあった(写真四)。道祖神は地域から厄神と呼称され、正月に厄年の人が茶碗を投げつけて割って帰るなどの習俗があるというこの説明があった(写真五)。また、道祖神碑に、人工物と思われる窪みがあった。この窪みに関して様々な議論が行われていた(写真六)。

最後に、上川手第二公民館にて篤竹細工の製作を見学した(写真七)。ザザ虫捕り同様に地元の白鳥英二さんから、篤竹細工について説明が行われた。篤竹細工は、スズタケを加工した竹細工である。篤竹細工の歴史は天正八年(一五八〇)頃に高遠藩主仁科五郎盛信が甲州から竹細工の技術者と呼んだことが始まりとされている。また、明治四五(一九一〇)年頃に養蚕の勃興に伴い需要が増大し、一時は一〇〇人が製造に携わったという。その後、昭和三八(一九六三)年頃から、石油加工製品が出回り、需要が減少して技術者が減少していった。その後、昭和五八(一九八三)年長野県伝統工芸品に篤竹細工が指定され、上川手竹細工クラブが発足する。現在、上川手竹細工クラブは上川手第二公民館で活動しているという。篤竹細工の竹の加工の時期は、一月から翌年三月までと限られているため冬季でなければできないという。ここでも篤竹細工の体験があった。上川手竹細工クラブの人は、止まることなくスムーズに編んでいた。実際に篤竹細工の製作を行ったところ、編むところの順番を間違えて隙間が空いてしまった(写真八)。

本例会では、午前中にザザ虫捕り、午後道祖神見学と篤竹細工の見学が行われた。特に、ザザ虫捕りや篤竹細工に関しては行われる時期が限られているため、継承がとても困難ではないかと感じた。また、ザザ虫は自然環境に左右されやすく、年々その数が減少し



写真三 ザザ虫採りの体験



写真二 アオムシ



写真一 ザザ虫の説明



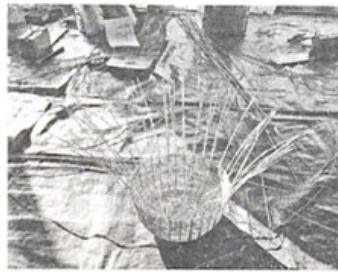
写真六 道祖神碑の窪み



写真五 割れた茶碗の残骸



写真四 自然石道祖神



写真八 簗竹細工の体験



写真七 簗竹細工の説明

ていることも聞いた。今後、これらの技術がどのように変化していくのか今後も見えていく必要があるのではないかと感じた。現在、コロナ禍の中止になるなどの影響が多く出ている。その中で本例会は、三回分の例会を一同に開催したようにとても充実した例会になった。特に、見学、話を聞くだけではなく、実際に自分自身も体験できるということができた非常に素晴らしい例会であった。今後、新型コロナウイルス感染症の流行が収束して通常通りに例会が開催できることを切に願う。

(埼玉県川越市清水町)

第二二八回例会について

田澤 直人

第二二八回例会が、伊那市で昨年の一二月一八日に開催された。当日は、県の北部を中心に雪が降り、大事をとって当日の出席を見合わせる会員が相次いだ。結果、一〇名の参加者により、例会が行われた。

筆者も、佐久から諏訪に抜ける国道を通ることに不安を感じ、高速道路の上信越道から中央道を経由して伊那に向かった。

また、当日は午後、佐久市内で別の会議あったために、例会の三つの見学会のうち、最初の見学会であった天竜川河川敷における「ザザムシ捕り」の見学だけに参加した。

ザザムシ漁に関しては、NHKの番組「目撃! にっぽん」の二〇一九年六月三〇日放送